



ごうちゃんねる (GO-CHANNEL)

2022/11/05

あっさり黙示録 #39

世界最終戦争の始まり

—ユーフラテス川の枯渇—

黙示録 16 章

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏



お元気ですか。高原剛一郎です。今日は**あっさり黙示録**の 39 回目。
 艱難時代のラスト 1 週間に起こる 7 つのプロセス・裁きについてお話ししています。
 今日は **6 番目の裁き・第 6 の鉢**がぶちまけられた時に起こることについて。
 6 番目の鉢の裁きの内容をひと言で言うと、世界最終戦争とも言われるハルマゲドン戦争が起こる。
 ハルマゲドンは場所です。イスラエルのイズレエル平原。
 世界最終戦争の戦地はイスラエルだ、と聖書は語っているんですね。

黙示録 16 章 12～16 節がハルマゲドン戦争のことですが、長いので 3 回に分けて解説します。
あっさり黙示録と言いながら“じっくり黙示録”になりかかっているのですが、とても大事なところなので今日は **12 節**限定です。

黙示録 16 章

12 第六の御使いが鉢の中身を大河ユーフラテスに注いだ。

すると、その水は涸れてしまい、日の昇る方から来る王たちの道を備えることになった。

大河ユーフラテスは中東世界最大の川です。
 ユーフラテスの語源は、古代シュメール語で銅という意味があったようです。
 シュメール文明の中で、銅の鉱石を運ぶ運搬手段として、この川が頻繁に用いられたんですね。
 ユーフラテス川は銅川と読み取ることできるでしょう。



源流は現トルコ →そこからシリアを流れ



→更にイラク →イラク辺りでチグリス川と合流し



→合流した後は名前が変わってシャトルアラブ川



→最終的にペルシャ湾に注ぎ込む

チグリス川は古代ペルシア語で虎という意味。ティルガ/虎。ティルガとタイガー、似てますね。銅と虎が結婚してシャトルアラブ川になった。

この2つの川の間には平野が出来ます。集積平野ですね。これがメソポタミアです。

メソポタミアはギリシア語で“2つの川の間”。人類文明の非常に古い発祥の地と言われています。

このユーフラテス川が涸れる。そんなこと、あり得るのでしょうか。

中東は雨季と乾季に分かれ、雨季には雨がドーンと降りますが、乾季は全く雨が降らない。水がほんとに貴重になります。

ユーフラテス川の源流はトルコにあります。トルコはユーフラテス川源流の最上流部に、なんと22カ所もダムを造り、19カ所の水力発電所を設置したんです。そして、乾季にダムをせき止めて水流コントロールをする。それで、下流の国々がモロに影響を被ることになったんですね。

ユーフラテス川の下流のイラクでは、水量がめっきり減ったために、ペルシャ湾の海水がユーフラテス川に流れ込む形になり、大変な被害が発生しているというニュースが時々流れて来ます。

「終末時代にはトルコがダムをせき止めるために、ユーフラテス川が涸れるのだ」と語っている…のではないんです。そんな人為的なことで川が涸れるのではありません。

第六の御使いが鉢の中身を大河ユーフラテスに注いだ。すると、その水は涸れてしまい、これは、明確な神の裁きなのです。

ところで歴史を遡ると、かつてユーフラテス川が涸れるということがあったんですね。

艱難時代には、ユーフラテス川のほとりに大きな町が建っています。バビロンです。

バビロンこそが反キリスト帝国の首都で、獣の座/王座があります。



今のバビロンは遺跡しか残っていない、何も無い所です。

しかしドバイのように、ついこの前まで何もなかった所が、やがて世界の政治・経済・宗教の中心になると聖書に書いてあるんです。

かつてバビロンは、大帝国の大首都だった時代がありました。

新バビロニア帝国の首都で、バベルの塔が建っていた場所でもあったんですね。



BC539年10月24日、この新バビロニア帝国は滅ぼされました。

ペルシア大帝国の初代王キュロス大王が、このバビロンを滅ぼしたんです。

これは非常に不可能に近い作戦だと思われていました。

バビロンは鉄壁の城壁に囲まれた難攻不落の町で、どうしても乗り越えることができない。また、地下深い所にまで城壁が掘られていたので、トンネル掘って入ることもできない。

しかし、たった一日でやすやすと、キュロス王はバビロンを滅ぼすことに成功したんです。

実は、バビロンはユーフラテス川をまたぐ形で建っていました。

町の中を流れるユーフラテス川を工事でせき止めたんですね。そして、干上がった川底を踏みしめて、ペルシア・メディアの大群が南北からドワツと入り込み、わずか一日で陥落させたんです。

バビロンは全く無抵抗でした。宴会やっている真っ最中に襲われたからです。

「このバビロンが滅びるはずがない」と高を括ってたんでしょ。油断していて、たった一日で滅びてしまったんですね。

その時の様子を見たユダヤ人の預言者がいました。ダニエルです。
ダニエル書には、この時の様子が非常にリアルに書いてあります。
いつか『あっさりダニエル書』ということで、この興味深い預言書の解説ができればいいなと考えています。

かつてバビロンが滅んだ。その前兆はユーフラテス川が涸れることだった。
艱難時代にも同じことが起こります。

大河ユーフラテスが涸れた時、反キリストはしめしめと考えたようですね。
その水は涸れてしまい、日の昇る方から来る王たちの道を備えることになった。
世界最終戦争でイスラエルに殴り込みを掛ける時、バビロンよりも東のアジアの国々の王たちが大軍を容易に送り込むには、ユーフラテス川が1つの大きな障壁でした。
それが道になったんです。乾いてるんです。簡単に渡ることができるようになったんですね。
それで、遂に絶好のチャンスが訪れたと考えるのですが、さにあらず。

ユーフラテス川が涸れるということはバビロンが滅亡する前兆。
それが歴史上実際あったように、このハルマゲドンで、反キリスト帝国が遂に崩壊するということなんですね。具体的にどのように崩壊するのか、その様子は次回解説します。

チャンネル登録もお願いします。ではまた ごうちゃんねるでお目にかかりましょう。
皆さん、お元気でいてください。さよなら！

☆引用：新日本聖書刊行会「聖書 新改訳 2017」いのちのことば社,2017